

科目名	臨床病態学 II (内科学) Clinical Pathophysiology and Therapeutics II		担当教員 (研究室番号)	鈴木 孝明 (非常勤)		教員への連絡方法 (メールアドレス)						
履修 年次	2年次 前期	科目 区分	専門支持科目		選択 区分	必修	単位数 (時間)	2 (30)	授業 形態	講義	科目等 履修生	否
											オープン クラス	否
科目 目的	臨床病態学の知識の修得を通して、病理学などの基礎医学と内科学などの臨床医学の知識を有機的に結合して統合し、疾患の発症メカニズムと治療アプローチへの理解を深めます。同時に、将来の医療プロフェッションとして期待される科学的態度や論理的思考方法、能動的学習プロセスの展開方法を身につけ、生涯学習の行動様式を身につけます。											
ディプロマ・ ポリシー (DP)	主要なDP	B 人々の生活に根ざした看護を実践するための幅広い教養と専門的知識を有している。(知識・理解)										
	関連するDP	E 地域社会に暮らす人々の生活支援において必要となる情報を分析し、健康課題を解決するための方策を考えることができる。(思考・判断)										
到達 目標	各領域の代表的な疾患の病態メカニズムを理解し、治療法の理解に必要な、細胞生物学、解剖学、生理学、生化学、病理学、薬理学などの基礎医学の知識を整理し、内科学などの臨床医学の基礎的な医学知識を説明することができる。また、医療プロフェッションとして必須の能動的学習態度と、科学的・論理的思考法について実践的に学び、生涯学習の行動様式を身につける。											
成績評価方法 (基準)	講義は、構成主義に基づくアクティブ・ラーニング形式で行い、各自の予習と復習を支援するため、形式的評価を毎回行います。講義前にポートフォリオの提出を求め、評価対象とし、さらに、毎回実施する小テスト等や、適宜提示する課題への提出物をもとに、各自の学習意欲や成果、および論理性や思考力を総合的に評価し成績とします。第3回目と第11回目の講義では、中テストを行います。											
再試験の有無と 基準等	ポートフォリオの評価に、小テストと中テスト、提出物の評価を加えて、総合的に評価とします。単位認定レベルに届かない場合は、再試験を受験しその合格が必要です。											
教科書	看護のための臨床病態学 (南山堂)											
参考書等	病気がみえるシリーズ：(医療情報科学研究所)											
学生の主体性を伸ばす ための教育方法と学生 への期待	アクティブ・ラーニング形式と形式的評価法を導入し、国家試験にとどまらず、将来、特定看護師など専門看護師をめざす基礎にもなるよう、実践的かつ論理的な臨床医学知識の習得をめざします。学び、成長するのは、あなた自身ですので、この講義をただ受け身に聴くだけでは目標に到達できません。ポートフォリオ、講義、小テストや課題ワークなどから、自ら能動的学習プロセスを展開し、それを身につけ、将来の医療プロフェッションとしての基礎を築いてください。みなさんが元気に学習する様子を見守るのを楽しみにしています。											
備考	無断欠席・遅刻、ポートフォリオや小テストおよび課題ワークが未提出、内容が貧弱、など、講義期間中に不適切な学習態度がみられる場合、講義中に特別発言を求めたり、個別に課題を課するなど、その後の行動変容を期待し、適宜、助言や注意喚起をします。それでも学習行動の変容や成果がみられず、到達目標に未達成と評価される場合、再試験を受験し合格しないと単位が認定できません。											
回	学習項目			学習内容				主担当 教員	授業 方法			
1回	病理学各論5：脳神経			神経疾患の理解に必要な解剖学や生理学の知識を整理し、重要な症候の発症メカニズムと、主な神経疾患の病態メカニズムについて、知識を習得します。				鈴木	講義			
2回	病理学各論6：内分泌			内分泌疾患と代謝疾患の理解に必要な解剖学や生理学の知識を整理し、重要な症候の発症メカニズムと、主な内分泌疾患の病態メカニズムについて、知識を習得します。さらに、栄養代謝の基礎知識を確認し、糖尿病、高脂血症やメタボリックシンドロームなどについて理解を進めます。				鈴木	講義			
3回	臨床病態学II入門：臨床病態学I (病理学)からのつなぎ			臨床病態学II (内科学)の理解に必要な病理学各論を中心に、細胞生物学、解剖学、生理学、生化学などの基礎医学の知識を整理するために、中テストを実施します。				鈴木	講義			
4回	血液内科			血液学領域をテーマに、貧血、出血傾向、白血病、悪性リンパ腫などの臨床病態と治療法について基礎的な知識を整理し理解を深め、輸血療法、骨髄移植など専門的で高度な項目まで理解を進めます。				鈴木	講義			
5回	呼吸器1：急性疾患			呼吸器領域の、急性呼吸不全、肺炎、肺塞栓症、気胸などの臨床病態と治療法について基礎的な知識を整理し理解を深め、酸素吸入、動脈血液ガス分析、人工呼吸器管理、胸腔ドレインなど専門的で高度な項目まで理解を進めます。				鈴木	講義			
6回	呼吸器2：慢性疾患			呼吸器領域をテーマに、慢性呼吸不全、慢性閉塞性肺疾患、肺癌、気胸などの臨床病態と治療法について基礎的な知識を整理し理解を深め、呼吸法指導、酸素吸入、禁煙指導、睡眠時無呼吸症など専門的で高度な項目まで理解を進めます。				鈴木	講義			
7回	循環器1：心不全、虚血性心疾患、ショック			循環器疾患のうち、虚血性心疾患、心不全、ショックなどの臨床病態と治療法について基礎的な知識を整理し理解を深め、心臓カテーテル検査や心臓エコー検査、CCU治療室や大動脈内バルーンパンピングなど専門的で高度な項目まで理解を進めます。□				鈴木	講義			
8回	循環器2：弁膜症、不整脈、大動脈疾患、末梢血管			循環器疾患のうち、弁膜症、不整脈、大動脈解離、末梢血管疾患、高血圧症などの臨床病態と治療法について基礎的な知識を整理し理解を深め、心電図、人工ペースメーカー、抗血栓治療など専門的で高度な項目まで理解を進めます。				鈴木	講義			

回	学習項目	学習内容	主担当教員	授業方法
9回	腎臓内科	腎臓領域をテーマに、急性腎不全、慢性腎不全、ネフローゼ症候群、糖尿病性腎症などの臨床病態と治療法について基礎的な知識を整理し理解を深め、食事療法、血液浄化療法の原理や血液透析器の管理など専門的で高度な項目まで理解を進めます。	鈴木	講義
10回	糖尿病、代謝、内分泌内科	糖尿病、高尿酸血症、脂質異常症、メタボリックシンドローム、肥満症などの代謝疾患と、甲状腺、クッシング症候群、骨粗鬆症などの内分泌疾患の臨床病態と治療法について知識を整理し、ステロイド剤治療や閉経期など専門的で高度な項目まで理解を進めます。	鈴木	講義
11回	前半まとめ	10回目までの講義内容について中テストを実施します。	鈴木	講義
12回	消化器1：消化管	消化器のうち消化管領域をテーマに、主な消化管疾患の臨床病態と治療法について基礎的な知識を整理し理解を深め、嚥下障害、内視鏡治療、胃瘻や点滴などによる栄養管理など専門的で高度な項目まで理解を進めます。	鈴木	講義
13回	消化器2：肝臓、胆道、膵臓	消化器のうち肝臓、胆道、膵臓領域をテーマに、主な疾患の臨床病態と治療法について基礎的な知識を整理し理解を深めます。肝炎ウイルス治療薬、肝臓癌や膵臓癌の治療法など専門的で高度な項目まで理解を進めます。	鈴木	講義
14回	神経内科	神経内科領域をテーマに、意識障害、脳卒中、パーキンソン症候群、認知症、脊髄疾患、末梢神経疾患などの臨床病態と治療法について基礎的な知識を整理し理解を深め、筋萎縮性側索硬化症、抗けいれん薬や抗精神病薬、認知症治療薬など専門的で高度な項目まで理解を進めます。	鈴木	講義
15回	感染症内科、免疫	感染症の概念、疫学、主な感染症の臨床病態と抗生物質、治療法、免疫について基礎的な知識を整理し、耐性菌、母子感染症、関係法規、スタンダードプレコーションと院内感染対策、自己免疫疾患、アレルギー、ワクチン、免疫抑制剤、免疫不全症と日和見感染症、HIV感染者など専門的で高度な項目まで理解を進めます。	鈴木	講義

学 習 課 題

毎回、小テストを実施します。講義開始前に、自己学習の記録としてのポートフォリオの提出が必要です。また、適宜、課題を提示する場合があります。小テストは、採点后、原則として各自に返却し、解説講義を行い、理解が深まるようにします。中テストは返却しません。

実務経験を活かした教育の取組

自治医科大学臨床教授、臨床研修指導医として学生・研修医教育に関わった実務経験を活かし、臨床病態学の理解が容易となるような具体例を交えながら、学生の理解を支援します。